



## ■ 理事長就任の挨拶

### 理事長 片岡弥恵子



この度、亀井智子前理事長の任期満了に伴い、2022年6月に理事長を拝命いたしました。聖路加看護学会は、1996年の設立以来、人々の健康や幸福を目指し、看護実践の質の向上に貢献する研究開発に尽力しております。

これまでの学会活動を俯瞰してみると、医療者とのパートナーシップのもと、人々の主体性やその人の力を最大限に発揮することを支える、People-centered care が学会活動の中に体现されていると改めて感じます。COVID-19 感染拡大、ウクライナへの軍事侵攻、甚大な自然災害など、様々な困難を抱える現社会において、People-centered care は重要性を増しております。今後も、People-centered care 推進に向けて、研究活動や人材育成に力を注いでまいります。

これまで学会では、若手研究者・実践者の活躍を推進するため、学術集会で、卒論、修論の発表の場を設け、さらに若手研究者への研究助成も拡大しております。学生たちが、自分の研究成果を発表することは、自らの論文を推敲し、より完成度を高める作業であり、大きな成長につながります。さらに、アットホームな学術集会は、若手とベテランが平場でディスカッションできる場であり、知見の共有や新たな発見のための貴重な機会となっています。With コロナにおいて、オンラインを最大限活用することで難しい局面を乗り越えてきた実績から、新たな学術集会のあり方を模索していきます。若手研究者の研究資金の獲得が厳しさを増す中で、研究助成もさらに拡大していけるように努力していきたいと存じます。

これまでの役員ならびに会員の皆様が培ってくださった豊かな伝統と自由な文化を礎に、様々な学会とのコラボレーション、他の学問領域の研究者とのネットワークを通して、新たな発想を重視し、開かれた学会へと発展させることに力を尽くしてまいり所存です。会員が集い、議論・交流し、新たなものを産みだすことができる学会を共に創ってまいりましょう。

## ■ 第27回聖路加看護学会学術大会のご案内

学術大会会長 有森直子(新潟大学大学院保健学研究科 教授)

第27回聖路加看護学会学術大会が9月18日から10月25日(予定)にかけてオンラインで開催されます(一部ライブ配信)。

本学術大会のメインテーマは「オーダーメイド医療と看護」です。遺伝要因等による「個人ごとの違い」に着目した研究成果が臨床現場に応用されつつあります。看護はこれまでも「個別性」を重視してきました。医療が変わりゆく中で、看護において探求すべき「個別性」について深く考える機会とすべく、事務局一同鋭意準備を進めております。

特別講演では、「私的所有論」「生の技法」など、人々が生きていく過程と社会との関わりを考察した多数のご著書や論文を発表されている社会学者の立岩真也先生(立命館大学)に「生存学について(仮)」をテーマにご講演いただきます。教育講演では、約40年にわたり産婦人科医として胎児、妊婦、家族、そして社会に向き合われている久具宏司先生(東京都立墨東病院)に「遺伝医療の広がりと深まりー生殖補助医療の立場から」をテーマにご講演いただきます。特別企画は、一部の卒業生・修了生の皆様にとっては懐かしい存在である佐々木道人先生(日本聖公会、元聖路加国際病院チャプレン)にご協力いただきました(特別企画「チャプレンとはなそう!」は9月18日のみオンデマンドで配信します)。ミニ講座は「遺伝/ゲノム医療について基礎的な内容を看護の言葉で学ぶ5つの講座」を、シンポジウムでは、「看護における『個別性』の探求」をテーマに高度実践看護師にお集まりいただき、議論します。また本学術大会では事例検討会も企画しました。「こんなときどうする?妊婦さんに出生前検査について聞かれたら」として、事例をもとに出生前検査について悩む妊婦さんを支えるための援助を考えます。出生前検査や周産期医療・看護を初めて学ぶ方(学生)、これから取り組みたい方も、どなたでも参加しやすいようにグループワーク前にミニレクチャーを準備しています(事前申込制、定員20名、CLoCMiP®レベルⅢ認証申請選択研修に該当します)。

最後になりましたが、本学術大会では、「松谷美和子先生追悼企画『教育と実践のハーモニー』松谷美和子先生の聖路加看護学会での功績」をお届けする予定です。聖路加看護学会 前理事長であり聖路加国際大学の看護教育学教授であられた松谷先生の御功績を本学術大会で皆様と共有できれば幸いです。

演題も多数ご応募いただきました。

研究領域を特化しない聖路加看護学会の強みが集約された学術大会です。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。参加登録は10月10日まで可能ですが、9月18日しか配信しないプログラムもございますので、速やかな参加登録をお勧めします!

## プログラム

### ○学術大会 会長講演:「オーダーメイド医療と看護」

有森 直子(新潟大学大学院保健学研究科母性看護・助産学 教授)

### ○教育講演:「遺伝医療の広がりと深まり—生殖補助医療の立場から」

久具 宏司(東京都立墨東病院 産科医師、生殖医療専門医)

### ○特別講演:「生存学について」(仮)

立岩 真也(立命館大学 生存学研究所 所長)

### ○シンポジウム:看護における「個別性」の探求:当事者のニーズに応える専門性

個別のオーダーに対応する専門性 —APN の実践から—

シンポジスト

長坂 桂子(西武文理大学看護学部 准教授 母性看護専門看護師)

鈴木 美穂(慶應義塾大学看護医療学部 教授)

杉山 理恵(日本医科大学付属病院 高度救命救急センター主任看護師 /摂食・嚥下障害看護認定看護師 / 慢性疾患看護専門看護師)

### ○ミニ講座Ⅰ:遺伝/ゲノム医療について基礎的な内容を看護の言葉で学ぶ5つの講座

遺伝/ゲノム医療で使われている言葉の整理から、臨床で活用されている遺伝/ゲノム医療について各10分の動画で学びます。

<講座内容>

1. 遺伝/ゲノム医療の用語の整理
2. 遺伝の仕組み
3. 遺伝医療の例「①遺伝学的検査」
4. 遺伝医療の例「②出生前検査」
5. 遺伝医療の例「③がんゲノム医療」

### ○ミニ講座:聖路加看護学会誌 投稿への誘い

聖路加看護学会 学会誌編集委員会

### ○事例検討会:テーマ【こんなときどうする?妊婦さんに出生前検査について聞かれたら】

日時:9月18日 14:00~15:30 ※事前申込制

### ○特別企画:チャプレンとはなそう!!

佐々木 道人(日本聖公会 司祭、元聖路加国際病院 チャプレン)

※9月18日のみオンデマンドで配信

### ○松谷美和子先生追悼企画:「教育と実践のハーモニー」松谷美和子先生の聖路加看護学会での功績

奥 裕美(聖路加国際大学)、三浦 友里子(聖路加国際大学)



大会ウェブサイト:<https://www.slnc27.net/>

## ■ 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 2021 年度採択者報告

山田 路子

(聖路加国際大学 特任研究員)

2021 年度聖路加看護学会看護実践科学研究助成をいただき、「妊婦の胎児ボンディング(情緒的絆)障害の要因探索:妊娠初期から産後までの縦断研究」をテーマに研究を行いました。

ボンディングは、親から子どもに対する情緒的な絆と定義されます。親が子どもに対して、特別な感情が湧かず、怒りや拒絶感を抱くことはボンディング障害と呼ばれ、日本においても、産後に約 14% の母親がこの現象を抱いていることが報告されています

(Matsunaga et al., 2017)。ボンディング障害は、妊娠期間中から存在することがわかっています。妊婦が胎児に対して抱くボンディング障害は、出生後に、乳児の気質および発達に悪影響を及ぼす可能性が示唆されています (Branjerdporn et al., 2017)。このことから、胎児に対するボンディング障害の要因を探索することは临床上重要です。

研究の目的は、妊婦の妊娠末期の胎児ボンディングに対する、心理社会的要因の影響の有無とその程度を評価し、強力な要因を探索することでした。

2021 年 1 月から 2022 年 1 月までの期間、妊娠 8-16 週未満の 20 歳以上の妊婦 262 名を対象に、4 時点の縦断調査を行いました。調査時点は、妊娠初期 (妊娠 8-16 週未満)・中期 (妊娠 22-28 週未満)・末期 (妊娠 33-39 週未満)・産後 1 か月としました。

妊娠末期の胎児ボンディングに良い影響を及ぼしたものとして、パートナーからのサポートの満足度と、家族・友人を除く第 3 者のサポート人数がありました。つまり、パートナーからのサポートに関して満足度が高い母親である程、妊娠末期に胎児への怒りと拒絶感を抱かない傾向にありました。また、第 3 者からの家事や仕事を代わって行ってくれる、道具的サポートの数が多い母親である程、妊娠末期に胎児への怒りと拒絶感を抱かない傾向が強い結果となりました。

他方、妊娠末期の胎児ボンディング障害に、悪い影響を及ぼしたものとしては、妊娠がわかった時の否定的な反応、ボーダーラインパーソナリティ構造、パートナーとの対人関係を表す概念である不安定な成人アタッチメントの傾向、さらにはパートナーからの暴力がありました。

これらの要因を評価していくことで、ボンディング障害の早期発見に繋がる可能性があります。

この度は、聖路加看護学会看護実践科学研究助成をいただいたこと、心より御礼申し上げます。また、多くの方々のご支援によって上記テーマの研究が成立していることを銘記し、深く感謝いたします。

## ■ 高度実践看護開発委員会からのお知らせ

～2022 年度の活動について～

2022 年度も高度看護実践開発を推進のための研修会を開催いたします。

今年度から新しい委員も加わって、昨年度アンケートでいただいたご意見も参考にしながら、多くの方に興味を持っていただけるよう、委員会で企画を検討しているところです。詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせいたしますので、どうぞ楽しみにお待ちください。

(青木 悠, 猪飼やす子, 小松崎朗子, 山本加奈子, 吉田智美, 渡辺かつみ, 柳橋礼子)

## ■ 学術交流委員会からのお知らせ

2022 年 6 月から新しい委員会体制でスタートしました。委員は、青木美紀子(聖路加国際大学)、大森祥乃(聖路加国際病院)、佐藤直子(東京ひかりナースステーション)、鈴木美穂(慶応義塾大学)、高橋奈津子(神奈川県立保健福祉大学)、松本文奈(聖路加国際大学)、そして委員長吉田千文(常磐大学)の 7 名です。皆様の声を反映させながら学術交流事業と看護実践科学助成事業(以下、研究助成)に取り組みます。よろしくお願いたします。

学術交流事業では 2023 年 3 月 5 日(日)にオンラインでの学術交流集会を検討しております。看護の実践、教育・研究の現場での課題を取り上げ、皆様が交流を通して新しい視点を得ることができるようにと考えています。是非、皆さまの企画アイデアや要望を委員までお寄せください。また、研究助成は例年通り 2022 年 12 月から募集開始する予定です。詳細は後日ホームページでお知らせします。皆様の応募をお待ちしております。

(委員長 吉田千文)

## ■ 学会誌編集委員からのお知らせ

7 月 31 日付で、26 巻に研究論文 3 編が掲載されました。今年度より、論文掲載までの期間短縮につながるよう、論文投稿の随時受付を開始し、年 4 回(4 月、7 月、10 月、1 月)にわたり論文掲載を行う予定です。皆様の実践や研究の成果を、是非とも本学会誌にご発表ください。皆様の論文投稿を心よりお待ちしております。

尚、今期の学会誌編集委員会は、新たに、小野若菜子氏(聖路加国際大学)、青木裕見氏(聖路加国際大学)に加わっていただくことになりました。学会誌に関するご意見、ご質問は学会事務局までお寄せください。

(担当:有森直子、大坂和可子)

## ■ 会計からのお知らせ

新規理事会のもとますます充実した学会活動を期待していただければと思います。研修会や講演会、研究助成などの企画が今年も行われます。学会誌はオンライン投稿により迅速な査読や論文掲載がかなうようになり、会員の皆様にとってメリットの大きなシステムです。このような活動には予算が必要です。

会員の皆様におかれましては、改めて会費納入についてご確認いただければ幸いです。毎年会費未納者は会員数の1/4以上であり、対応に苦慮しています。会費納入は、アカデミックな活動に参加する臨床家や研究者にとって最低限の責務です。

学会活動に積極的にご参加いただきますとともに、それを支える会費納入をどうぞよろしくお願いいたします。

振り込み先：郵便振替口座

口座番号：00100-8-670371

加入者名：一般社団法人聖路加看護学会

(担当 平林優子 小林真朝 亀田典宏)

## ■ 編集後記

広報委員会は海老原樹恵、賀数勝太がメンバーとなり7名で今期がスタートしました。さらにパワーアップした広報活動をしていきます。

コロナ禍3年目、猛暑の夏が過ぎました。今年は各地でコロナ前の賑わいを取り戻すようなイベントが開催されていた一方で、これまでにない程の感染拡大が続いています。緊張感が続く日々ですか、皆さまどうぞご自愛ください。



ニュースレター発行や様々な情報をメールリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 [slnr@slcn.ac.jp](mailto:slnr@slcn.ac.jp) までご連絡ください

### 一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.58

▶ 発行：2022年9月5日

▶ 編集：広報委員会

(松尾尚美 佐居由美 瀬戸山陽子 大橋久美子 竹森志穂 海老原樹恵 賀数勝太)

▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <https://slnr.or.jp/>

